

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス川越 南大塚教室		
○保護者評価実施期間	1/1/2024 ~ 12/31/2024		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	放課後デイ 25 児童発達 11	(回答者数)
			放課後デイ 25 児童発達 8
○従業者評価実施期間	1/1/2024 ~ 12/31/2024		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)
			11
○事業者向け自己評価表作成日	2/20/2025		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	柳沢運動プログラムに沿った体系的な運動療育	お子様が楽しく活動に参加できるように準備(事前声掛け・スケジュール作成)をしている。 いつも同じ活動にならないよう、毎日変化を加えて活動メニューを作成している。	子ども一人ひとりの興味や課題に合わせた運動プログラムを実施できるよう職員教育の充実を図る。
2	こどもプラス本部との連携により、安心・安全な施設運営が行われている	年に3~4回、こどもプラス本部のスーパーバイザーを教室にお呼びし、教室運営や安全管理についてのチェックを行ってもらっている。また、それ以外にも療育についての情報共有を毎月行っている。	より連携を強化し、オンラインミーティングやオンライン研修の参加を図る。
3	保護者とのコミュニケーションおよびお子さんへの理解	保護者への連絡手段として『電話』を積極的に活用している。アナログな手法ではあるが、文字ではなく言葉でコミュニケーションをとることで保護者との信頼関係を築いている。 また、『連絡帳』も活用しており、毎日お子様の写真を貼り、事業所での様子がより伝わるよう工夫をしている。	短い時間でも直接話すことができる機会が増えるようにスケジュールを組む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時の各種マニュアルや研修及び訓練について、保護者への情報伝達方法	保護者の方へ必要な情報発信を行っていく必要がある。	個別の説明や連絡帳以外の方法で情報発信を行えるか検討する。
2	児童発達支援児童と放課後等デイサービス児童が混在している日は、ペースが乱れてしまう事がある	同じスペースを使っているため、場合によってはスペースや活動を分けた療育を提供していく。	大きい子は小さい子のお世話をしたり、小さい子は大きい子を良きお手本として、お互いを慕う関係、環境を整えていく。

3	新しく個別支援計画に記載された「移行支援」「家族支援」について、支援方法について確立されていない部分がある	各支援について、具体的な支援方法についての検討が充実していない。	一事業所として移行支援・家族支援で何ができるか、今一度振り返る。
---	---	----------------------------------	----------------------------------

## 公表 護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもプラス川越 南大塚教室

公表日 3/4/2025

利用児童  
数 13

回収数 11

	チェック項目	はい	どちら とも いえな い	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	1	0	0		運動プログラムが実践可能なスペースを確保しています。また、空間を最大限確保する為、訓練室内の椅子や机は移動可能な、固定式でないものを使用しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1	0	1	何人の先生がいるのか分からないので何とも言えない	お子様の安全を確保できる職員を配置したうえで、プラスのケアができるように職員を配置しています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	0	0	1		障害特性に応じ、自立を促す補助を適切に行っています。また、バリアフリーの観点では事業所内に段差を作らない等の工夫をしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	0	0	1		現在感染症対策として入室時に消毒・車両の消毒・事業所の玩具や運動用具・床の消毒を定期的に行っています。また、事業所内には高性能空気清浄機を配置し、また、湿度および気温の管理も徹底して行っています。今後も感染症対策に有効な手段を探し取り入れていきます。
	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	0	0	0		お子様の特性については保護者の方からの聞き取り含め、お子様の事業所内での様子をよく見た上で理解を進めています。特性についても断定して対応するのではなく、常に変化

適切な支援の提供	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	0	0	0	柳沢運動プログラムに従って日々活動を行っています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	0	0	0	定期的な面談でニーズの聞き取りを行っています。また、面談以外でも日々の保護者とのやり取りでニーズを拾い上げられるよう心配りをしていきます。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	0	0	0	ガイドラインに沿った支援を行うよう、計画作成時に意識しています。今年度から様々な変更がありましたが、適切に対応し具体的な支援内容を設定できるように努力しています。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	0	0	1	計画通りの支援ができるよう児発管を中心に体系化した支援を行っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	0	0	0	児童に合わせて都度運動プログラムの内容を毎日変化させています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	0	1	7	計画的に近所の公園に出かけ、一般の方々と交流する機会を作っています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0	今年度の報酬改定の変化についてもすべての利用者に説明を行いました。ご不明点があればいつでもお問い合わせください。

保護者への説明等	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	0	0	0	ガイドラインに基づいた支援設計を行い、面談時にも支援内容について説明を行っております。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	1	2	4	面談時は勿論ですが、事業所ではいつでもご相談を受ける体制が整っております。ご心配なことがありましたらいつでもご連絡ください。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11	0	0	0	面談やノートを通して子供の状況や課題を共有できています 連絡帳にて日々の様子を記入し、保護者への情報共有を行っています。子どもに対する課題が共通で認知できるようより綿密なコミュニケーションを図ります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	0	0	0	面談時は勿論ですが面談以外の時も相談窓口を開いています。お気軽にご連絡ください。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	0	0	0	全職員安全第一に、優しく丁寧な対応を心がけています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	0	5	4	現在、父母の会・保護者会の開催予定はありません。同学校や施設から利用している児童もあり、必要に応じ保護者間の連携が取れるよう都度情報共有を行い連携の支援をしています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	0	0	2	臨機応変に対応していただいております 相談事や気になることに関しては、スピード感を重視しており、当日中の解決を目指し、迅速に対応しています。

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	0	0	0	お子さんとは絵カードで意思疎通をすることもあります。 保護者とは連絡帳でのやり取りを基本としています。また、口頭の方が伝わりやすいことは、電話での連絡も積極的に行っています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11	0	0	0	定期的に、こどもプラスの月間プログラムを配布しています。また、定期的にHPでの情報発信も行っています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	0	0	0	個人情報を取り扱う書庫には、鍵がかかっています。不要な個人情報が記載されている書類は、シュレッダー等で裁断処理しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	0	5	全てのマニュアルは事業所内に保管・掲示しており、保護者も面談時に確認することが可能です。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	0	0	5	訓練は年3回以上実施しております。いつでも非常災害に対応できるよう、今後も定期的に訓練を行っていきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	0	0	0	お子様の安全を確保するために様々な対応を行っています。送迎時は必ず先に職員が降車してお子様の降車を補助する等、安全性向上のために細かい部分まで注意しています。

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	0	0	2		事故が発生した場合は何よりもスピード感を重視して対応しています。また、再発防止のために徹底した職員教育も行っています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	10	0	0	0		お子様が安心して通所できるよう、これからも努力して参ります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	11	0	0	0	『こどもプラスに行くよ』と声を掛けると、嬉しそうに玄関に向かっていきます。楽しく通っていると思います。たまに公園なども連れて行って遊ばせてくれるのもありがたいです。	毎日プログラムを変化させ子供たちが楽しめるよう工夫しています。また、運動療育がメインですが、創作活動も定期的に行っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	1	0	0	いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。	事業所の支援にご満足いただけるよう、努力して参ります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 3/4/2025				
こどもプラス川越 南大塚教室						
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	1	パーティションの利用や整理整頓を行うことで最大限にスペースを活用しています。 移動可能な椅子や机を利用することで場面に合った支援空間の整備をしています。	より事務所内のスペース確保ができるよう意識し、気づいたことがあれば都度改善していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	1	お子さんの特性に合わせ、臨機応変に協力して支援を行っています。	常に適切な人員配置ができるよう職員教育や子どもへの理解をより深めていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	1	絵カードを用いて分かりやすく・パーティションを利用することで構造化を実現させている。また、事業所内に段差を作らない等の工夫をしています。	今、教室を利用している子供にとって必要な配慮を心がけ、より良い環境づくりに努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	0	毎日掃除を行い、施設内の消毒・換気も定期的に行っています。	現在感染症対策として入室時に消毒・車両の消毒・事業所の玩具や運動用具・床の消毒を定期的に行っています。また、事業所内には空気清浄機を配置し、また、湿度および気温の管理も徹底して行っています。今後も感染症対策に有効な手段を探し取り入れていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	お子様の様子を見て、必要な場合には別の場所を使用しています。	基準人員の確保やお子様の安全確保のため(見守りの人員配置が難しい等)、場合によっては別室への誘導が難しい時もあります。様々なお子様に合わせた対応ができるよう日々検討していきます。

業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	PDCAサイクルを回したものを、職員連絡帳・個別連絡事項ノートにて全職員に対し共有を行っています。	個別での振り返り時間の確保が難しいため、日々の業務の中で職員への聞き取りを行っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	評価表のみならず、常に、面談や連絡帳等保護者とのやり取りの中で声を拾い上げ、業務改善ができるよう意識しています。	保護者の意図を把握するため、より細やかな心配りを意識していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	日々の業務の中で、職員からの意見を把握できるよう声掛けを行っている。また、適宜面談を行い、その際にも職員からの意見を確認しています。	責任感や向上心を持った職員が活躍できる環境整備を目指していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	こどもプラス本部のスーパーバイザーに、3～4か月に一度、事業所の運営や安全性についてチェックをしてもらっています。	事業所の資質をより向上させるため、外部の協議会や連絡会へ積極的に参加して行きたいと考えています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	0	事業所内研修の実施だけでなく、強度行動障害支援者養成研修やこどもプラス本部の研修に参加・企画しています。	こども家庭庁からの通知内容に則った研修制度の整備を行い、常に改善をしていきます。また、職員向けに外部研修の情報を発信していこうと考えています。
業務改善	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	今年度の報酬改定に合わせて適切に対応しています。	充実したプログラムとなるよう努力して参ります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	日々記録している児童記録や定期的に保護者との面談から、児童発達管理責任者が課題に対する分析を行っています。	定期的にアセスメントを行い、お子さんの成長に合わせて情報の更新を行っています。

13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	計画作成の中でお子様の様子について職員への聞き取りを行ったり、会議や面談も行っています。	職員の声により聴くことができるよう環境整備に力を入れていきたいと考えています。
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	児童発達支援計画への理解を深められるように、常勤職員の間で支援内容の詳細確認を行っています。	その日のお子さんの状態を適切に判断し、柔軟な視野を持って支援計画に沿った支援が行えるよう意識していきます。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	ガイドラインに沿った支援を行うよう、計画作成時に意識しています。また、子供の特性を考えながら個別の支援内容を考え、日常生活動作の自立に向けて具体的に設置するようにしており、保護者との話し合いの中で設定しています。	児童発達支援計画には、適切で具体的な支援内容があり、それを実際に行うことに今後も注力していきます。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	ガイドラインに沿った支援を行うよう、計画作成時に意識しています。また、子供の特性を考えながら個別の支援内容を考え、日常生活動作の自立に向けて具体的に設置するようにしており、保護者との話し合いの中で設定しています。	児童発達支援計画には、適切で具体的な支援内容があり、それを実際に行うことに今後も注力していきます。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	こどもプラス本部のチームが作成したプログラムを軸に、教室職員への聞き取りや話し合いを行い、協力して活動を行っています。	聞き取りの時間を予め設定し、より意見の吸い上げが行える環境整備を行うことで、より完成度の高いチーム形成を目指します。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	こどもプラス本部が毎月作成している運動プログラムを軸に活動を変化させ、また創作活動も季節に応じたものを行っています。	ただ変化させるだけでなく、その意図や質を高めていくことを意識していきます。

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	児童発達支援管理責任者が、お子さんの状況を考え、適宜分析し、定期的に変更や追加を加え作成しています。	関わる全ての職員が個別支援計画書に基づいた体系化した支援を目指します。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	支援内容や役割分担については一目で分かるツールを使用する等、効率的な確認方法を採用する工夫をしています。	支援内容・役割についての理解をより深められるよう、よりよい職員教育ができる環境整備を行っています。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	支援の中で気づいた点など何かあれば児童発達支援管理責任者に報告し情報を一元管理、必要な共有情報は職員間の連絡帳や個別支援連絡帳等のツールを用い全職員が確認する仕組みがあります。	報告だけでなく聞き取りも積極的に行い支援に関する記録で「漏れ」が出ないようにしていきます。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	0	通所したお子様の記録は毎日必ずとっています。また、その記録をもとに毎月モニタリングおよび検証を行い、お子様の状態を常に理解できるよう工夫しています。	職員の声により聴くことができるよう環境整備に力を入れていきたいと考えています。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	毎月モニタリングを行っています。	モニタリングの期間については充実していると考えています。内容の充実に向けて日々努力して参ります。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	管理者や児童発達支援管理責任者が積極的に参加しています。	職員への周知も積極的に行おうと考えています。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	今後もより多くの方から意見や情報共有ができるようつながりを深めていきます。	現在は対象となるお子さんはいませんが、今後そういったお子さんが利用予定となった場合に対応していきます。

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	必要に応じ関係各所に対し、ヒアリングを行っています。	相談支援事業所ともコミュニケーションを取り、より綿密な連携を取っていきたいと考えています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	基本的には保護者を通じて支援の方向性がまとまりを持つように注意しています。	今後、相互理解をより深めるための工夫をしていきたいと考えています。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答)					今後も事業所としての支援の質の向上という点も含めて連携強化に努めたいと考えています。

	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	0	連絡会への参加や、日々の業務の中でも接点を持ち連絡を取り合っています。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	外出時に事業所外のお子様と活動する機会があります。	外出やイベントについては、状況を考慮し、安全を確保した上で活動に移していきたいと考えています。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	保護者との連絡ツールとして連絡帳を活用しており、互いに子どもの状況を伝えあっています。	利用日が少ないお子さんに対しては、家庭内でどう過ごしているのか、より聞き取りの頻度を増やしお子様の状況理解を深めていきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	面談時や困りごとの相談があった際にしつかりとヒアリングを行い、解決のに向けて協力を行っています。また、毎月支援に役立つ情報誌を発行しています。	情報提供についてはHPの活用や月刊誌の発行を行っていますが、研修機会については検討していきます。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に顔を合わせて書類の読み合わせ、丁寧な説明を行っています。	ご不明な点があればいつでもご連絡ください。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	計画を更新するタイミングで毎回面談、アセスメントシートの更新を行っています。本人および保護者の意向を尊重して支援計画の作成に当たっています。	お子様にとっての最善の利益とはなにか、常に考えて支援計画を作成していきたいと考えています。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	面談時に原案を作成し、保護者への作成を行っています。大幅な変更がある際には別途電話等でコミュニケーションを取り、保護者からの理科を得ています。	今後もご理解を頂きながら支援計画の作成を行っていきます。

保護者への説明等

38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	定期的な面談以外にも、相談窓口を設け、いつでも相談に対応できる環境整備をしています。	保護者からの相談を待つのではなく、お子さんの様子から潜在的な保護者の悩みに気づき支援を行うことができるよう努力します。
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	同学校や施設から利用している児童もおり、必要に応じ保護者間の連携が取れるよう都度情報共有を行い連携の支援をしている。	保護者会等の開催は現在予定していないが、未就学児の保護者は療育について不安のある方が多いので工夫して情報の提供や機会を作っていきたいと考えています。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	苦情の対応窓口を設置しており、常に対応できる環境整備をしています。	迅速な対応をするためよりきめ細やかな報連相を事業所内・保護者に向けて行っています。
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	毎月情報誌の発行及びHPの更新を行っています。	より事業所としての活動に興味関心を持っていただくよう工夫していきたいと考えています。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	個人情報を取り扱う書庫には、鍵がかかっています。不要な個人情報が記載されている書類は、シュレッダー等で裁断処理しています。	個人情報の取り扱いについて、職員全員の意識を高める環境づくりを今後も行っています。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	年齢や障害の重さにより、言葉の理解が難しい児童は、絵などで対応することもあります。保護者とは第三者を踏まえて話し合いを行う等の配慮をしています。	子どもとの意思疎通に関して、絵カード等言語以外のコミュニケーションツールを増やすなどの取り組みを行っていますが、よりその質を高めていきます。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	近隣の公園や神社にて地域の方と交流しています。	地域住民の方に事業所の認知をしていただくためにも、事業所外での活動をしていきたいと考えています。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	避難訓練に参加した保護者の方には連絡帳でその情報をお伝えしています。またマニュアル関係は事業所内に保管しており、いつでも確認できる環境にあります。	実際に事故や災害が発生した場合に備え、より実用性の高い訓練の実施をしたいと考えています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	1	避難訓練を年2回以上実施、振り返りも高い質の向上を目指しています。	災害が起きた時にいつでも対応できる環境整備・訓練を行っていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	契約時、支援計画の更新時に必ず確認しています。	安全に通所できるよう、常にお子さんの変化に注視していきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	現在は対象のお子様がいません。	現在は対象のお子様がいませんが、対応できるように準備をしています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	安全計画はこどもプラス本部のフォーマットに従い策定されており、必要な措置を講じています。	災害が起きた時にいつでも対応できる環境整備・訓練を行っていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	月刊誌を活用しています。	月刊誌を読んでらっしゃらない保護者の方のことも想定し、その他の情報提供について検討します。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0	事業所内だけでなく、内容によっては他事業所への情報共有も行い、都度改善内容を事業所内で共有しています。	ヒヤリハット共有からの改善に関して、改善過程をより見える化することで職員の意識の底上げを図ります。

	<p>52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。</p>	<p>11</p>	<p>0</p>	<p>虐待防止研修の体系化を行い、研修を行っています。</p>	<p>虐待の疑いがある場合は児童相談所へ相談して、慎重な対応をするよう心掛けています。</p>
	<p>53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。</p>	<p>9</p>	<p>0</p>	<p>保護者から了承を得た上で、組織決定し個別支援計画に加えます。</p>	<p>虐待防止委員会を定期的に開催し、より健全な意思決定ができる事業所を目指します。</p>